

二〇一八年度

帰国生入学試験

【基礎学力検査】

「国語」問題

1. 問題および解答用紙は試験開始の合図があるまで開かないでください。
2. 解答はすべて解答用紙の所定の欄に記入してください。
3. 受験番号および氏名は解答用紙の所定の欄に記入してください。
4. 試験終了後、解答用紙を問題の上に入れて置いてください。
5. 回収するのは解答用紙だけです。問題は持ち帰ってください。
6. 「国語」の問題は1ページから7ページまでです。

1 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

ピカソの絵は分かりやすい、という人は少ないだろう。人物の絵を見ると、鼻は横向きで、目は上を向いている。手足はばらばらで、お腹むかの上に目があったりする。⁽¹⁾ いったい、どういふつもりで描いたのか、と思うだろう。

幼児が勝手気ままに描いたのなら、幼児なのだからという理由で納得できる。しかし、ピカソは子どもではない。それどころか、二十世紀を代表する超大物画家ときている。ピカソをこれほど高く評価する現代とは、どういう時代なのか。

第一次世界大戦のあと、ヨーロッパを中心にシユールレアリズム※1という運動が盛んになった。これは、戦争をとおして現代人の非人間的な情況に気づいたところから始まった。つまりは、物質文明の中でやせていった人間性を回復させようという運動だといってもよい。

いろいろな運動が試みられたが、その一つにデペイズマン（視点移動）という運動がある。たとえばエッシャーのだまし絵などがその一つで、絵を見ると、二階がいつのまにか三階になったりする。

ところで、視点を定めることは、自然に限界を設定することだ。^(A) ショウゾウの前面が見えているとき背面が見えないのは当然だといえば、前面だけに限界を設定することになる。風景だけでなく、近代以降、⁽²⁾ 人々は何事にも限界を設定してきた。「永遠」というものを信じていない。地球が永遠に続くとは信じていないし、宇宙だって有限だと思っっている。宇宙の果てはどうなっているか、などと考える。

しかし、本来人間は「永遠」を信じていた。たとえば、古代ヨーロッパに広く住んでいたケルト人の紋様に渦巻紋様が多い。渦巻紋様の基本は連続性である。連続性を紋様の基本にすることは、古代ケルト人が永遠を信じていたことを示している。

縄文も同じだ。流水紋の基本は連続性であり、円も限りなく続いている。近代以降、人々が永遠という考え方を捨て去り、なんでも有限としてとらえるようになったのは、宇宙や自然を「科学的」に理解しようとしたからだ。

早い話が、宇宙はどうなっているかというとき、太陽系について考えてみると、というように宇宙を切りとって自分のテリトリーに入れようとする。切りとるときは、当然、自分の視点を設定する。

ところが、実際の宇宙は切りとることなどできない。言い換えれば、視点の設定など許さないのが宇宙である。ネットワークの全体が宇宙だからである。

その全体の中に、「私」も「あなた」もいるのだから立場は相対的で位置は一定していない。だまし絵で、二階だと見ているはずのものが三階だったりするのと同じことだ。

「私」とか「あなた」というのも、じつは同じく立場に限界をあたえたものであって、実際は、「私」の立場も「あなた」の立場も含んでわれわれは生活している。⁽³⁾ともに無限の宇宙の中でとる、仮の立場にすぎない。

古代人は、そう信じていた。シュールレアリズム運動は、そのことを思い出そうとする運動だったといえるだろう。

とくに日本では、かなり後の時代まで、そういう考えを持っていた。

たとえば、『和泉式部日記』という十一世紀の頃の古典がある。物語の筋自体は、和泉式部という情熱的な歌人が、恋人を亡くしてすぐ後にその弟と恋愛するという、非常に奔放な愛の物語である。

ところが、主人公の和泉式部という人間が、物語のある部分では「私」として登場し、別の部分では客観的な第三者として登場してくるのである。

これは一体どういうことか、国文学者の間では日記なのか物語なのかと議論になる。

しかし実体は、「私」、「あなた」、「彼(彼女)」というような固定したとらえ方をしていない、と考えるべきである。

たとえば、Aさん、Bさん、Cさんという三人がいる。もし、AさんがBさんに向かってCさんの噂話をしていれば、Aさんは「私」であり、Bさんは「あなた」、Cさんは「彼(彼女)」である。Aさんの視点から話しているからだ。

もし、このように視点を固定しなければ、Aさんは「私」になったり、「あなた」になったり「彼(彼女)」になったりする。

『和泉式部日記』は、そういう書き方である。ある部分では和泉式部の視点から書かれ、別の部分では第三者の視点から書かれている。視点を固定させず、自在に変化させているのである。

⁽⁴⁾ピカソも同じである。視点を自在に動かすので、鼻が横向きになったり、目が上向きになる。一つの視点から見ると必要などない、というのがピカソの考え方だ。

ピカソは、単にキを^(c)てらって、視点を自在に動かしてみたのか。その程度のことなら、あのような不思議な絵が大傑作として美術史上に重きをなすことはないだろう。

視点を固定することで、現代人にとっての風景は貧相になった。顔を見ながら同時に背中を見ることがよってはじめて全体が見え、情景は豊饒なイロドリ^(D)に満ちてくる。そのことをピカソは知っていた。

視点を定めることが、現代生活を便利にしたことは否定できない。平面の絵に立体的な距離感を出すことができるのは、視点を定めるからだ。視点が遠くにおかれたり近くにかけたりすれば、距離感は出せない。

自然科学が発達できたのは、視点を定めたからだ。

しかし、視点を定めることによって、人間は貧しくなった。

⁽⁵⁾ 視点を定めることは、「私」への過信である。自分のこの位置から見えるものがすべてである、相手のお腹が見えるとき背中が見えないのは当然だ、と機械的に割り切ってしまうため、風景が色あせた。

その色あせた風景をもう一度豊かに復活させるのがピカソであり『和泉式部日記』であるだろう。われわれは、視点の設定を拒否し、人の命を宇宙のネットワークの一部であり全体でもある、ということを確認することによって、風景を豊かに回復させることができる。

(中西進『日本人とは何か』より)

※1 シュールレアリズム：芸術の形態や主張の一つ。日本語では超現実主義と訳される。

問1 ——線部(A)と(D)のカタカナは漢字に改め、漢字はひらがなで読み方を示しなさい。

問2 ——線部(1)「いったい、どういうつもりで描いたのか」とありますが、筆者はピカソがどのような意図を込めて絵を描いていたと考えていますか。空欄に当てはまる語句を、本文中からそれぞれ抜き出しなさい。

I (五字)

に筆を走らせたわけではなく、

II (十一字)

に警鐘を鳴らす意図を込めて絵を描いていたという考え

問3 ——線部(2)「人々は何事にも限界を設定してきた」とありますが、それはどのようなことですか。空欄に当てはまる語句を、本文中からそれぞれ抜き出しなさい。

人間が宇宙や自然の持つ

I (三字)

を無視し、「科学」という

II (五字)

によって宇宙や自然を自分のテリトリーに入れようとするこ

問4 ———線部(3)「ともに無限の宇宙の中でとる、仮の立場にすぎない」とありますが、「仮の立場」と述べられているのはなぜですか。理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「私」や「あなた」は、その場しのぎの呼び方にすぎず、無限の空間を考慮して二者を的確に表す呼び方にするには考えが足りないから

イ 「私」や「あなた」は、自身と目の前の他者を便宜上表現しただけの呼称で、宇宙規模でみると真の位置づけを表す呼称とは言えないから

ウ 「私」や「あなた」は、広大な宇宙の中ではごく微小で価値のない存在であり、そのような二者の関係だけに注目するのは無意味だから

エ 「私」や「あなた」は、そのときに偶然そうなった関係であって、果てしない宇宙においてそのときどきで変わる可変的な関係だから

問5 ———線部(4)「ピカソも同じである」とありますが、筆者は『和泉式部日記』とピカソの絵のどのような点が同じであると述べていますか。空欄に当てはまる語句をちょうど五字でおさまるようにまとめなさい。

『和泉式部日記』では主人公の視点が、ピカソの絵ではピカソの視点が (五字) 点

問6 ———線(5)「視点を定めることは、『私』への過信である」とありますが、「視点を定め」た結果、現代人にどのような「過信」が生じましたか。説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自然科学による物事のとらえ方が万能だという思いが生じた。

イ 奥行きが感じられる作品のみが価値ある芸術だという考えが生じた。

ウ 見えない風景を切り捨てる冷徹さを貫くことがよいという思想が生じた。

エ 便利さをひたすら追求しつつ、人生に潤いを与えようとする価値観が生じた。

問7

本文の内容と合致するものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 古代ヨーロッパの渦巻紋様や日本の縄文時代の幾何学的な流水紋は、自然科学の真理が表れたデザインだと言える。

イ 『和泉式部日記』の主人公の自由な振る舞いは、人間性が貧しくなった現代人のそれとは対照的なものである。

ウ ピカソは自らの作品を独特な構図にすることで、豊かな世界観を提示できることを知っていた。

エ 視点を一つに固定し限界を設定したことにより、現代人の暮らしは豊かではなくなってしまった。

オ 宇宙の存在を常に意識することによって初めて、我々は失われた風景や人間性を取り戻すことができる。

2

次の文章を①～③の条件にしたがって、八十字以上百字以内で要約しなさい。

- ① 三文で要約すること
- ② 第二文の書き出しを「しかし」、第三文の書き出しを「つまり」で始めること
(……………。しかし……………。つまり……………)。
- ③ 解答欄の一マス目から書き始め、句読点も一字に数えること

私たちは、何らかの情報を集めたいとき、しばしばコンピューター端末やスマートフォンを用いて、インターネット上の情報を検索する。その際、多くの場合は、いずれかの検索サイトを訪れ、関連する検索語を入力し、検索をすることになる。例えば、「中央大学杉並高校」のことを調べようと思い、「中央大学杉並高校」という検索語を入力すれば、インターネット上にある中央大学杉並高校に関連する情報が、当然のごとく検索結果として上位に並ぶ。このことだけを取り上げれば、インターネット検索は、検索語と一致する文字列を闇雲に探しているだけに見える。

しかし、実際の検索結果は情報がかなり整理された状態で示される。たとえば、中央大学杉並高校の情報を集めようと思つて、今度は「中杉」を検索語として入力した場合、やはり期待通りの情報が上位に並ぶ。これは当たり前のこととは言えない。なぜなら、文字の連なりとしての「中」＋「杉」を考えた場合、中野区と杉並区を結ぶ「中杉通り」の情報も検索対象となるからだ。それに、「一日中、杉花粉に悩まされた」といった表現だつて検索対象となるはずだ。花粉症患者は日本全国におり、その人たちがこうした話題を振りまいている可能性は大いにある。ただし、それにも関わらず、「中杉」で検索をすると、実際には、中央大学杉並高校に関連する情報がまずは上位に示され、次いで、中杉通りに関する情報が示される。「一日中杉花粉に悩まされた」話題にはなかなか出会うことはない。

検索サイトで提供される検索エンジンは、情報を検索する際、検索される側の情報が検索者の求める情報なのかどうかを判断する必要がある。そのために、検索される側の情報を、意味に応じた文節や単語に切り分ける、という作業を行う。「中杉通り」の話題は「中杉通り」というひとまとまりの固有名詞として判断されるため、「中杉」という検索語で検索した場合、候補の最上位にはならない。また「一日中杉花粉に悩まされた人」は「一日中／杉花粉に／悩まされた人」であつて、「一日／中杉／花粉に／悩まされた人」ではない。つまり、「一日中杉花粉に悩まされた人」という文字列は、「中杉」の情報を検索したい人にとっては、無用な情報であるため、検索の対象からは除外されることになる。検索エンジンは検索対象となる情報が、検索意図に沿った情報なのかどうかということを選別しているのである。

(本文は本校で作成した)

